

「故郷」「専修大学校歌」など作詞

高野辰之の人生に迫る



愛情豊か、豪放磊落…作品にその人間性が

創作ノートなど展示 シンポや合唱演奏会も



▲ 初日の来場者でにぎわう企画展会場

日高義博理事長・学長、坂田隆石巻専大校長らによるテープカット



「故郷」「春の小川」「臘月夜」…日本中で歌い継がれる数々の名曲を残し、専修大学など全国100校以上の校歌を作詞した高野辰之(1876-1947年)の業績を紹介する展示会(石巻市・石巻専修大学・専修大学共同企画展「唱歌斉唱『故郷』の作詞者・高野辰之の生涯」)が12月1日から16日まで仙台市の東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)で開かれた。

期間中、シンポジウムや高野が作詞した唱歌や校歌を合唱する記念演奏会も開かれ、多くの人が訪れた。

近松など江戸、俗文学、に光



▲ 左から瀬戸口、近藤、板坂、岩井、青木の各氏(シンポジウムで)

シンポジウムは9日に同ホールで開かれた。「高野辰之と尋常小学唱歌」をテーマに神戸大学名誉教授の岩井正浩氏(近代音楽)が基調講演。青木美智男専修大学史編集主幹を進行役に、岩井氏と板坂則子文学部教授(近世文学)、石巻専修大学の近藤裕子理工学部特命教授(作曲理論)、瀬戸口龍一文学研究にささげた。特に大衆に人気があったが「俗文学」と軽視された歌謡や近松門左衛門に代表される演劇など江戸期の文学に光を当てた功績は大きい。



▲ 講演する板坂教授

板坂教授は「高野は江戸時代の思想を丁寧に読み解き、元禄期を中心とする江戸文学研究の基礎を築いた人物で、その実証的な研究姿勢から生み出された成果

校歌の作詞者である高野と料や、創作ノート、手紙、日専修大学とは縁が深い。また 記など約80点を展示。文学・演東日本大震災後「故郷」がよ 劇・邦楽など日本文化の研究く歌われるようになった。展 者としての業績も残した高野示会は、そんな背景から高野 の知られざる素顔に迫った。の作品や生涯を知ってもらお また、石巻の東日本大震災うと企画された。 前の光景や復興の足取りを伝える写真も展示した。

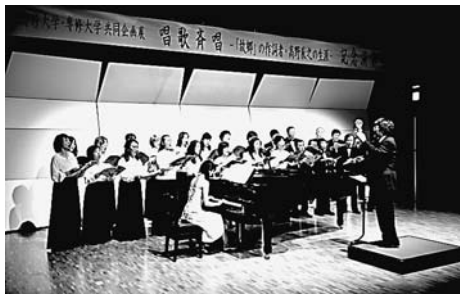
作詞者、国文学者の高野の業績と人となりを紹介しシンポジウム



▲ 復興歌「こし大披露」を披露した石巻専大特命教授 近藤裕子

は、いまだに多大な影響を与え続けている」と語った。また高野のお孫さん、芳賀綾さん(東京工大名誉教授・国語学者)がビデオで登壇。「豪放磊落な半面、涙もろい

石巻専修大学と仙台で記念演奏会



記念演奏会は1日に仙台市のエル・パーク仙台で、また15日には石巻専修大学で8団体が出演して開かれた。「故郷」「春の小川」などを披露。素朴で美しい歌詞と旋律に、聴衆は聴き入った。演奏グループは以下の通り。

- ▽仙台放送合唱団▽水明ハルモニークラブ▽石巻専修大学グリークラブ▽石巻合唱連盟▽石巻マンドリン▽石巻専修大学合唱部▽石巻市民交響楽団



▲ 石巻専修大学合唱部



▲ 石巻市民交響楽団

新しい本

フランスにおける産業と福祉

1841年児童労働法をめぐってフランス資本主義を検証した。



齊藤 佳史著

19世紀から20世紀初頭にかけてのフランスで、市場経済における個人の孤立化と窮乏化を前に、社会の再構築はいかに進められたのか。の根幹をつくりあげた。

酒井勝軍



久米 晶文著

600頁を超える大著である。伝記的叙述の対象となつてはいるが、酒井勝軍とは、明治・大正・昭和を生きたキリスト者であり思想家である。日本にレミッドがあった、モーセは日本に渡り、日本とユダヤは同じ祖先をもつといった奇説を唱え、日本オカルティズムの根幹をつくりあげた。

この「異端」の思想家を分析するにあたって、著者は「神秘主義は教養である」(まえがき)と挑発する。巻(う)むことなく本書を読み進めていけば、これがキリスト教的教養をベイスとして酒井のオカルト思想が成立していることを象徴的に語ったものである。また同時に神秘主義研究を「きわもの」にせぬためのぎりぎりのスタンスを表明していることにも思いいたるであろう。(学研・本体3800円十税)

著者(くめ・まさふみ) 商学部非常勤講師。総合科目「精神世界論」担当



樋口 映美訳

アメリカ黒人町 ハーモニーの物語 知られざる公民権の闘い

本書は、アメリカ合衆国 ミシシッピ州で公民権獲得のために生きたアフリカ系アメリカ人女性ウィンソン・ハドソンによる回想を、クエイカー教組織などの活動に関わったアイルランド系アメリカ人女性コンスタンス・カリーがまとめた